

TOKUSHIMA INNOVATION HUB

スマート漁業支援システムの構築

リーダー：徳島県立農林水産総合技術支援センター



チームメンバー：阿南工業高等専門学校、和田島漁協船曳網青壮年部

■ 背景

- 本県の海面漁業就業者は、2023年漁業センサスによると1,636人で減少の一途である。高齢化も深刻である。
- 新規就業者の確保育成ため、操業判断や漁場選定を支援する情報を配信し、漁業のスマート化を推進する必要がある。
- 最先端の観測機器を搭載した新たな漁業調査船の本格的な調査開始に間に合うよう、高度な漁海況予測システムの開発に着手。



■ 目的

- 操業の判断や、漁場の選定に役立つ予測情報を配信する
「漁海況予測システム」を開発
- 若手からベテランまで、
「誰もがスマート水産業を実践できる環境」を整備



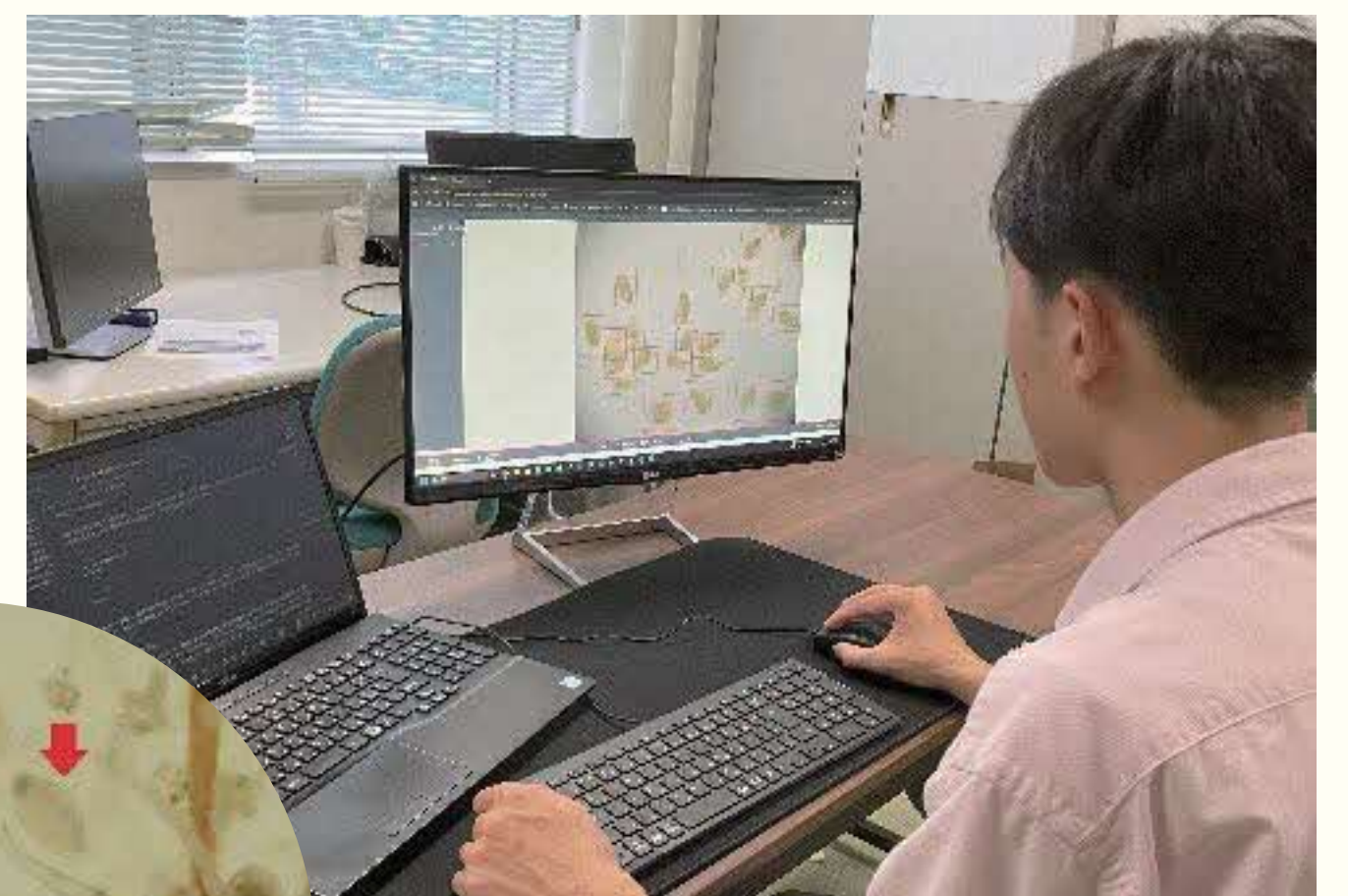
■ 活動内容

カタクチイワシ（シラス）の漁況予測モデルの実用化

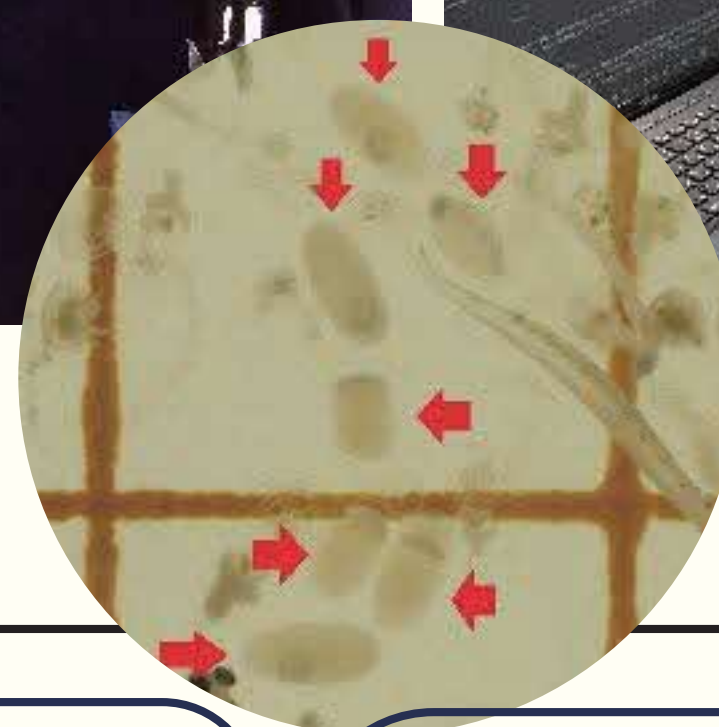
- 画像解析による簡便な卵計数
- AIによる流況パターンの分類等
⇒海洋観測などで得られるカタクチイワシの卵密度や海況データから翌月のシラス（カタクチイワシ稚仔魚）の漁況を予測するAIモデルの実用化を目指す



調査船による曳網調査



阿南高専でのAIモデル構築



カタクチイワシ卵の検鏡写真

水温予測モデル開発

- 地先小型ブイの観測網データや、公開されている気象予報を解析
⇒養殖ワカメ漁場の水温予測モデルを開発



情報提供・検証

- 予測モデルをわかりやすい形態に加工し、Webで公開するシステムを構築
⇒精度や利便性を検証・改善